



第417号 平成25年4月1日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町601-1 こどもみらい館 2階

TEL (075) 256-0351

FAX (075) 241-3568

発行人 奥村正治

## 平成24年度 学校保健講習会

会長 奥村正治

本年度も日本医師会館にて日本医師会（主催）日本学校保健会（後援）で、2月24日（日）1日間で行なわれた。昨年までですと、土曜日に学校保健講習会が開かれ、翌日曜日には、日医主催の乳幼児保健講習会が開催されるのが通例であった。しかし、土曜を休診にしないと参加できない為だろう？学校保健講習会は日曜日に開催された。土曜日（23日）の診療後、東京に向かいました。愚息がちょうど東京に在中ですので、そこを宿にして土曜日からの参加といたしました。

池袋の夜も（東京中そうだろうと思いますが）若者が大勢うろろしておりました。これがウィークデーになるとスーツスタイルの人達が大量うろろしているとの事でした。案の定12時をまわるかな？という時間帯で家に着き、就寝は1時を回っていたと思います。

朝の10時より開会です。一般的には環状線駒込駅より日医へ行くのですが、小生1つ西の巣鴨駅であり、日医に向いました。歩く時間はさほど差はなかった様に思います。

例年通り、1題目は文科省の学校保健対策専門官の話ですが、昨年とちがい（インフルエンザ等のお休みの話し）本年は、変更点などがなかったので、と思われるが、通り一辺倒の話で、皆様にお伝える話題はありませんでした。

2題目は「いじめについて」と題して（いじめから子供を守ろう！ネットワーク代表）井澤一明氏の

話しであった。特に児童・生徒の対象となる年代のいじめは、学校が中心である。例えばいじめを経験・目撃した場所はどこでしたか？という問いに、「学校で」という答えが99.1%を示している。又、いじめの兆候は、クラスがまとまらない、教師への信頼感の喪失をあげておられ、教師の学級運営のまずさが指摘されていた。又、いじめを発見する方法は「仲間外れを見つける事」、いじめの学級指導は「うそを見抜き、見逃さない」又、教師に求められる姿勢では「相手を見て態度を変えない」「善悪をはっきり示す」との事でした。

午後はシンポジウムで、—今日の学校保健の課題：健康診断を中心に—という話題であった。

①総論②心臓検診③腎臓検診④発達障害児検診⑤不登校児検診⑥歯科検診⑦聴覚・言語障害児検診の7題であった。早ければ数年後には実施されるかもしれない運動器検診の話題はなく、ものたりないと云うか、今までのまとめと云うか、もう1つだったシンポジウムでした。その中でもどこの部門だったかはさだかでないが、多分①の総論と思うが、「検診後の専門的受診がなされてはじめて学校検診の意味がある」あたりまえの話ですが専門的受診が出来るかぎり受診しやすいように！！と思って考えた話題であるが、2月号（第415号）の「残念」はうまく可動しなかったのはシンポジウムを聞いていて「残念」が残念でしょうがない。

## 平成24年度 思春期・青年期事業検討会議に参加して

常任理事 杉本英造

検討会議には、京都市こころの健康増進センター（京都市立病院北側）が中心となり、関係機関：京都市学校医会・京都大学・京都府立医大・京都家庭裁判所・京都少年鑑別所・NPO法人京都ダルク・京都市ユースサービス協会・京都府警察本部・下京保健センター・児童福祉センター・発達障害者支援センター かがやき・京都市教育委員会・文化市民局勤労福祉青少年課等の関係者が出席しました。

今回は、京都ダルクより「思春期・青年期における薬物問題の現状と課題」と題した、脱法ハーブ、医療機関から処方されたベンゾジアゼピン系薬物の乱用について基調報告がありました。DARCとは Drug Addiction（依存・常習者）Rehabilitation Centerの略で、薬物依存から回復を願っている人に対し、グループセラピーを行っています。

その後「薬物問題への取り組み」について各機関から報告。京都市立学校では、保健体育教科にてタバコ・アルコール・薬物乱用防止教育を行なうと共に、警察・学校薬剤師の協力で「薬物乱用防止教室」を実施しています。24年10月の京都市学校保健会健康教育シンポジウムでは、「喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育」が主題として取り上げられましたが、若者への教育・薬物に染まらせない入口問題の重要性が再認識されました。

大学病院・精神科病院も薬物の急性治療には対処できても、リハビリを行なっている施設はほとんどなく、京都ダルクに頼っている現状も浮かびあがりました。麻薬や大麻などの違法薬物でなく、合法的薬物が簡単に入手できる問題が増加していることは、医師として考えさせられました。

---

## 平成24年度京都市立学校定期結核健康診断の結果報告

常任理事（結核対策委員） 大久保 秀 夫

平成24年度の京都市立学校定期結核健康診断について報告いたします。

平成24年度の間診調査実施数は小学校64,567名、中学校30,893名、総合支援学校428名の計95,888名でこのうち116名（0.121%）が家族・本人の患・予防内服歴、高まん延国からの帰国、自覚症状有り等の理由で要検討となった（表1）。要検討理由が「家族あるいは本人が罹患したか感染を受けて予防内服歴がある」による者は小学校、中学校、総合支援学校合わせて27名であったが、全員が保健センターでの管理を受けているか管理を終了していることが確認された。問診時自覚症状有りとした者6名は再調査において症状が消失していたか医療機関を受診し結核の疑いはないことが判明していた。その結果、ツベルクリン反応検査（ツ反）の対象となったのは

83名で全例高まん延国からの帰国者であった。83名中80名がツ反を受検し38名が陽性であった。このうち32名はBCG接種者であったがツ反強陽性の者はいなかった。BCG未接種でツ反陽性であった者は6名であった（表2）。胸部X線直接撮影は前述の高まん延国からの帰国者のうちBCG未接種でツ反陽性であった者6名とツ反を受けなかった者1名の合計7名が対象となった。この他に高まん延国からの帰国者でツ反を受けていなかった者がもう1名確認されたがその後再び海外に転出していたため対象からは外れた。7名の対象者のうち6名が胸部X線直接撮影を受検したが有所見者はいなかった（表3）。最終結果として平成24年度定期結核診断において結核患児は発見されなかった。要検討に挙げられながら必要な検査を実施できなかった児童・生徒は高ま

ん延国から帰国しツ反も胸部X線直接撮影も受けなかった1名だけであった。

昨年報告したように、平成24年3月に文部科学省により「定期健康診断における結核健診マニュアル」の改訂が行われた。その最大のポイントは、従来精密検査の対象であったBCG未接種者については事前に情報を得ておく意義はあるが精密検査の対象とする必要はないとされた点である。例年BCG未接

種者は要検討者数の60%前後を占めていた。表1の問診結果の末尾に参考としてBCG未接種者数を挙げたが、平成24年度の要検討者数も改定前であれば258名であったところが改定により116名と大きく減じている。これに伴い、ツベルクリン反応対象者も同225名が83名と大きく減少し児童・生徒及び学校関係者にとって大きな負担軽減となったものと思われる。

表1 問診結果

校 種	在 籍 数	問診調査 実施者数	要検討者数	要検討者内訳			(参考)
				家族り患, 本人り患, 予防内服歴	高蔓延国 からの 帰国者	自覚症状	BCG 未接種
小 学 校	64,567	64,521	85	21	61	2	140
中 学 校	30,893	30,763	30	6	22	2	0
総合支援学校	428	397	2	0	0	2	2
合 計	95,888	95,681	116	27	83	6	142
割 合		99.784%	0.121%	0.028%	0.087%	0.006%	0.148%

表2 ツベルクリン反応検査

校 種	対象者	受検者	未受検者	陽性者
小 学 校	61	59	2	26
中 学 校	22	21	1	12
総合支援学校	0	0	0	0
合 計	83	80	3	38

表3 胸部X線直接撮影

校 種	対象者	受検者	未受検者	有所見者
小 学 校	6	5	1	0
中 学 校	1	1	0	0
総合支援学校	0	0	0	0
合 計	7	6	1	0

## 東山支部会のご報告

東山支部長 橋 平 誠

3月3日、桃の節句に学校医会東山支部会を新町仏光寺の木乃婦で行いました。奥村会長、竹内副会長の両先生にもご出席頂き、竹内先生から予防接種の最近の知見をお話頂きました。30分と無理なお願いにも関わらず、短時間に分り易く定期接種化の必要性、日本脳炎ワクチンの経緯等をお話頂きました。

奥村会長からは新設される白河特別支援学校の東山分校についてご説明を頂きました。

出席の会員からはMRIV期接種済みの学生に対し

て各種実習の際に抗体価検査、再接種を課す必要性に疑問が出され、予定時間を超えて話が弾みました。東山支部会では最近まで学校医をお勧め頂いていた先生方にもご案内を差し上げており、当日は2名の元学校医の先生に御出席頂き、現会員11名と共に活発な討議と懇親会を楽しんで頂きました。

統合で今後、会員数の減少が予想されますが、小所帯の良さを生かし、まとまりの良い支部活動を続けていきたいと思っております。

## 第11回 常任理事会

平成25年4月6日

於 事務局

出席者 奥村会長、林副会長、井本専務理事、杉本・山内各常任理事、鈴木耳鼻咽喉科専門医会理事、長村監事

### ・会長挨拶

### <報告事項>

1. 校医・小児科医感染症講演会 3/2  
於：ANAクラウンプラザホテル京都
2. 東山支部会 3/3 13名出席 於：木乃婦
3. 右京支部会 3/9 12名出席 於：嵐山弁慶
4. 色覚相談 3/12 1名
5. 精神衛生研究会 3/14
6. 平成24年度 思春期・青年期事業検討会議 3/19  
於：京都市こころの健康増進センター（本誌 P.2 参照）
7. 腎臓相談 3/26 2名
8. 新任校医研修会 3/28 15名出席  
於：こどもみらい館
9. その他

### <協議事項>

1. 全理事会について 4/11
2. 平成25年度 京都市学校保健会役員選出について  
役員選出
3. 平成25年度 京都市小学生記録会出務医について  
出務医選出
4. 第64回 指定都市学校保健協議会について  
5/26 於：神戸市看護大学
5. 第44回 全国学校保健・学校医大会について  
11/9（秋田）

6. 会誌について
7. 平成25年度 京都市学校医会総会について 4/20
8. 第66回近畿養護教諭研究協議会について  
8/1～2（京都）
9. その他

### <関連学会・各種協議>

1. 全理事会 4/11 14:00～ 於：こどもみらい館
2. 精神衛生研究会 4/11
3. 第62回 京都市学校薬剤師会懇親会 4/13
4. 京都市学校医会 総会 4/20 15:30～  
於：竹茂楼
5. 第1回 常任理事会 5/11 14:00～
6. その他

## 全理事会

平成25年4月11日

於 事務局

出席者 奥村会長、竹内副会長、井本専務理事、杉本各常任理事、垣田・坂中・楡垣・清水・橋平・吉田・辻幸子各理事、鈴木耳鼻咽喉科専門医会理事、長村監事

### ・会長挨拶

### <報告事項>

1. 事業報告 平成24年度事業報告
2. 会計報告 平成24年度決算報告
3. 各支部活動状況 各支部の先生より報告

### <協議事項>

1. 平成25年度予算について  
平成25年度予算案について協議

## 京都市学校医会：精神衛生研究会のご案内

「自閉症スペクトラム：ASD」「注意欠陥多動性障害：ADHD」「学習障害：LD」等の言葉を聞いたことはあるけれど？  
今、学校では多くの担任・養護教諭が発達障害や摂食障害等の問題に直面し困っておられます。このたび、新しく学校医に着任された先生方にも、相談案件がありましたら、よきアドバイザーになっていただければ幸いです。

学校医会：精神衛生研究会では昭和53年より子供の心の問題・発達障害をテーマに京都大学：青木健次教授を講師に招き、毎月1回抄読会を開き研修しております。年に3冊程度のゆっくりしたペースで青木先生の解説と時事の話題を織りまぜ進めています。ご興味のある先生がいらっしゃいましたらご参加お待ちしております。

場所：京都市学校医会事務局（京都市中京区間之町竹屋町下ル楠町 こどもみらい館2階）

電話：256-0351 FAX：241-3568

日時：毎月第2木曜日 14：30～16：30

### 4月からの新しいテキスト

「ガイドブック アスペルガー症候群 親と専門家のために」 トニー・アトウッド著 東京書籍

初めて参加される方は、事務局へ日時の再確認をお願いします。（講師の先生の都合等で変更されている場合があります）